

口絵 ————— 1
発刊にあたり ————— 22

序章 吉村観阿について ————— 26

表1 観阿関係年譜

第一章 父・山田屋太郎兵衛 ————— 42

第一節 観阿の生家

第二節 江戸の両替商山田屋

第三節 宗徧流を学んだ太郎兵衛と観阿

第四節 浅草と観阿

第五節 観阿の号の出典

第二章 松平不昧との交流 ————— 66

第一節 不昧の茶会への参会

第二節 谷園中大茶湯

第三節 苦楽の扁額

第四節 観阿と不昧の交流を物語る作品

第五節 四十歳以降の観阿

表2 観阿が参会した不昧の茶会

第三章 溝口翠涛との交流 ————— 96

第一節 五十歳代

第二節 六十歳代

第三節 七十歳代

第四節 八十歳代から晩年

第四章 観阿の行状 ————— 120

第一節 観阿の茶会

第二節 寺院への寄進

第三節 勸進状の寄進の背景

第四節 観阿と酒器

第五節 苦楽号の使用時期

第五章 溝口家の事例にみる観阿の取り次いだ作品 ————— 170

第一節 観阿の取り次ぎと鑑定した作品

表3 売立目録にみる観阿が溝口家に取り次いだ作品名一覧

第二節 遠州藏帳「三不点茶箱」

第三節 木下長嘯子筆「十六夜の文」

第四節 大徳寺寸松庵伝来の三幅対

第六章 江戸における観阿の交流 212

第一節 松山担斎

第二節 岡田雪台

第三節 七代目・市川團十郎

第四節 阿部休巴

第五節 西村貌庵、井田吉六、三浦乾也

第六節 川上一指亭、長白翁

第七節 妻・観勢と中山胡民

第七章 観阿の目利き 252

第一節 観阿一家の花押

第二節 観阿の琴線

第三節 所持品から学ぶ姿

第四節 目利きの道統

終章 名人は名人を知る 278

謝辞 284

おわりに 286

付録 289

参考1 相見香雨が紹介する東大寺勸学院にある寿蔵碑文銘

付録1 東大寺勸学院にある寿蔵碑文

付録2 東大寺勸学院にある寿蔵に、観阿の没後に加えられた碑文(第三面)

付録3 弘福寺の墓表

付録4 売立目録にみる観阿関係作品

付録5 『白醉庵数寄物語』全文